

事 務 連 絡
令和 6 年 11 月 22 日

各国公私立大学学務担当課
各国公私立高等専門学校学務担当課
各大学共同利用機関法人担当課
文部科学省所管の独立行政法人担当課

御中

文部科学省科学技術・学術政策局人材政策課
国立研究開発法人科学技術振興機構理数学習推進部

令和 7 年度「次世代科学技術チャレンジプログラム」及び
「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」事業説明会の開催について

文部科学省及び国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）では、科学技術・イノベーションを牽引する次世代の傑出した人材を育成するため、初等中等教育段階（小学校高学年～高校生）において理数系に優れた意欲・能力を持つ児童生徒を対象に、その能力等の更なる伸長を図る多様な育成プログラムの開発・実施を行う機関を支援する「次世代科学技術チャレンジプログラム」及び女子中高生の理工系分野への興味・関心を高め、理系進路への意識醸成や理解促進を図る取組を行う機関を支援する「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」を実施しているところです。

令和 7 年度概算要求において、「次世代科学技術チャレンジプログラム」は 1 機関当たり実施規模により年 10～40 百万円、「女子中高生の理系進路選択支援プログラム」は 1 機関当たり実施規模により年 3～9 百万円の支援を予定しています。

つきましては、当該事業概要等についての説明会を下記の通り開催いたしますので、御案内申し上げます。なお、予算編成過程により、支援内容等を変更する可能性がありますので、御留意ください。

なお、昨年度の募集要項については下記 URL より御覧いただけます。

- ・次世代科学技術チャレンジプログラム

<https://www.jst.go.jp/cpse/stella/bosyu/index.html>

- ・女子中高生の理系進路選択支援プログラム

<https://www.jst.go.jp/cpse/jyoshi/oubo/bosyu.html>

記

1. 日時

令和6年12月25日（水曜日） 10時00分～12時00分

10時00分～11時00分 女子中高生の理系進路選択支援プログラム

11時00分～12時00分 次世代科学技術チャレンジプログラム

2. 実施方法

オンライン (Zoom)

3. 参加登録

下記アンケートフォームに必要事項を入力の上、参加登録をお願いします。

https://form2.jst.go.jp/s/r07_stella_jyoshi_registration

※同一機関で複数部署から参加される場合は、部署ごとに参加登録をお願いします。

以上

【事業に関する問合せ先】

文部科学省科学技術・学術政策局人材政策課次世代人材育成係

〒100-8959 東京都千代田区霞が関3-2-2

電話：03-6734-4191（直通）

E-mail：kiban@mext.go.jp

【参加申込・説明会に関する問合せ先】

国立研究開発法人科学技術振興機構理数学習推進部能力伸長グループ

〒332-0012 埼玉県川口市本町4-1-8 川口センタービル

電話：048-226-5669

E-mail：stella@jst.go.jp

背景・課題

- Society 5.0の実現に向け、未来を創造する人材の体系的育成が重要。
- 才能ある児童・生徒が最先端の研究等にアクセスする機会の充実が必要。

「第6期科学技術・イノベーション基本計画」(令和3年3月26日閣議決定)

- 突出した意欲・能力を有する児童・生徒の能力を大きく伸ばし、「出る杭」を伸ばすため、大学・民間団体等が実施する合同合宿・研究発表会など学校外での学びの機会や、国際科学コンテストの支援など国内外の生徒が切磋琢磨し能力を伸長する機会の充実を図る。

「我が国の未来をけん引する大学等との社会の在り方について(第一次提言)」(令和4年5月10日教育未来創造会議)

- 突出した意欲や能力を有する小中高生等を対象とした、大学等における、探究・STEAM・アントレプレナーシップ教育等を含む高度で実践的な講義や研究環境を充実。

「統合イノベーション戦略2024」(令和6年6月4日閣議決定)

- 小学校段階から高校段階までで一体的に育成するプログラムの実施機関数を拡充させるとともに、教育委員会等の関係者と連携し、希望者のアクセス機会を確保。

事業概要

[事業開始：令和5年度]

高校生を対象としたグローバルサイエンスキャンパス(H26開始)及び小中学生を対象としたジュニアドクター育成塾(H29開始)を発展的に統合し、実施機関の特徴や所在地域の実情に応じて対象世代を選択できる制度として拡充・運営改善。初等中等教育(小学校高学年～高校生)段階において理数系に優れた意欲・能力を持つ児童生徒を対象に、その能力のさらなる伸長を図る育成プログラムの開発・実施に取り組む大学等を支援。

【事業の目的・目標】

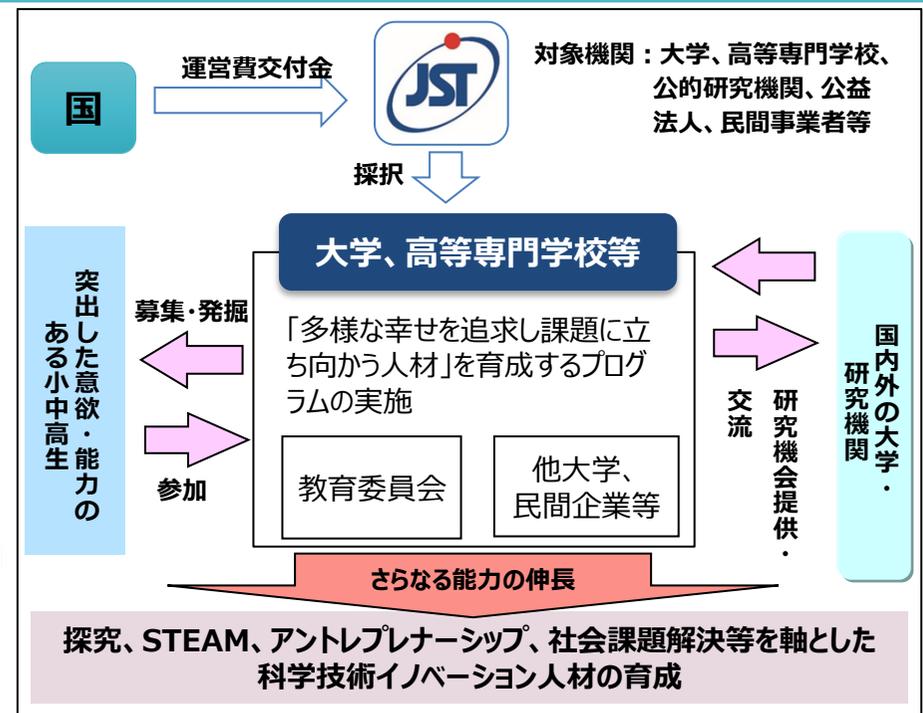
小中高生が最先端の探究・STEAM、アントレプレナーシップ教育を受けられる機会を創出することにより、将来グローバルに活躍する次世代の傑出した科学技術人材を育成する。

【事業スキーム】

- 採択期間：5年間
- 対象者：小学5年生～高等学校/高等専門学校3年生
- 実施規模・支援額(ノ機関・年)：52機関程度
 (※グローバルサイエンスキャンパス継続4機関、ジュニアドクター育成塾継続13機関を含む)
 うち令和7年度新規：14機関程度
 小中：8機関・10百万円、高：3機関・30百万円、小中高：3機関・40百万円
- 対象機関：国公立大学、大学共同利用機関、国立研究開発法人、高等専門学校、公的研究機関、科学館、博物館、公益法人、NPO法人、民間事業者

【特徴と期待される効果】

- 事業対象の拡大：実施機関の特徴を活かした制度設計、多様な機関との連携深化、新規機関(特に空白地帯)の参入促進、多様な取組への追加支援の仕組み構築
- 拠点数の拡充：児童生徒(特に小中学生)のアクセス機会の確保、地域の実情に即した人材育成拠点化、実施機関による地域への普及・展開
- 人材像の多様化：アントレプレナー・デジタル人材・グローバル人材など多様な人材育成



背景・課題

- 多様な視点や優れた発想を取り入れ科学技術イノベーションを活性化させるためには、女性の活躍が不可欠にもかかわらず、自然科学系の学部・大学院に占める女性の割合は、人文・社会科学に比べて低い。

「第6期科学技術・イノベーション基本計画」(令和3年3月26日閣議決定)

- 中高生、保護者、教員等に対し理工系の魅力を伝える活動や、理工系を中心とした修士課程・博士課程学生の女性割合を増加させるための活動において、女性研究者のキャリアパスやロールモデルの提示を推進する。女性の理工系への進学を促進するため、2021年度以降、更なる拡充を図る。

「我が国の未来をけん引する大学等との社会の在り方について(第一次提言)」(令和4年5月10日教育未来創造会議)

- 中学・高校における理数教育の充実に加え、幼少期から影響を与える保護者、学校、社会のジェンダーバイアスの排除に向けて社会的機運を醸成するなど、女子高校生の理系選択者の増加に向けた取組を推進する。

事業概要

【事業の目的・目標】

- 女子中高生の理工系分野への興味・関心を高め、**更に意欲・能力を伸長**させる機会を提供することで、適切に理系進路を選択することが可能となるよう、地域で継続的に行われる取組を推進。
- 女子中高生の適切な進路選択を通じた女性の多様な分野での活躍により、我が国の科学技術イノベーションを推進。

【事業スキーム】

- 採択期間：3年間
- 実施規模：**17拠点程度の大学・高専等を含めた連携機関等(うち令和7年度新規：10拠点)**
- 支援額：**3～9百万円/機関・年**
- 対象：女子中高生、保護者、教員
- 内容：シンポジウム、実験、出前講座、理系キャリア相談会等



【取組内容の特徴】

1. 事業運営の基盤を構築

産学官連携により、女性の活躍に関する社会全体の理解を促進、多様なロールモデルを提示。**JSTが中心となり実施機関同士の交流を推進。**

2. 文理選択に迷う生徒の興味を喚起

シンポジウム・実験等に加え、積極的な学校訪問によるワークショップ等を実施。理系の進路選択に関心が薄い層や文理選択に迷う層に対する、興味関心の喚起。幅広い視点からの進路選択に寄与。

3. 生徒の興味・能力を伸長

体験型重視のプログラムや一定期間継続して参加する取組を実施し、生徒の興味関心の向上や意欲・能力の伸長を目指す。

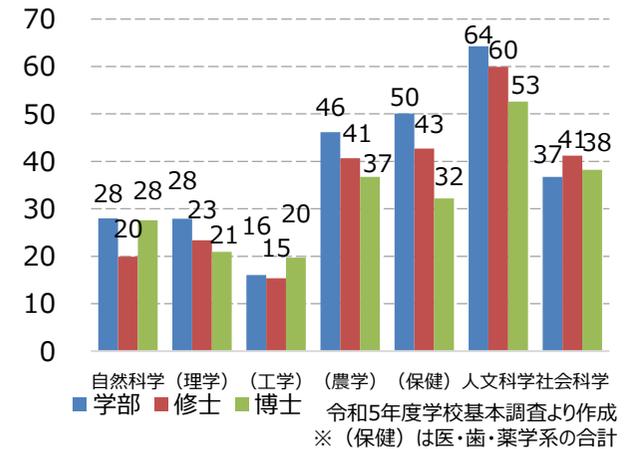
4. 保護者・教員等へのアプローチ

進路選択に大きな影響を与える保護者や教員向けの取組を積極的に実施し、興味関心の早期定着を図る。

5. 市区町村規模の設定

地域を絞った活動を行うことで、新たな機関の参加を促進。市区町村教育委員会と連携し、学校行事への活用や学校訪問機会の増加を目指す。

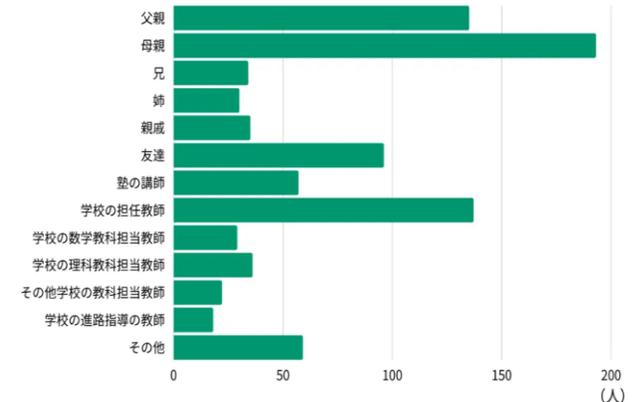
(参考) 学部学生・院生に占める女性の割合(%)



(参考) 「女子学生の理系進学における障壁と要因に関するアンケート調査」の結果※

- 理系分野で活躍する女性の具体的なイメージ提供、ないしはそれらにつながるような理系体験の提供が、女子学生の理系選択を促進する

文理選択に影響を与えた人物



※公益財団法人「山田進太郎D & I 財団」による調査(2023年9月)